

2026 年 7 月 31 日

報道関係各位

三菱地所株式会社

大手町・丸の内・有楽町エリアと神田エリアをつなぐ新たな都市の結節点

「大手町ゲートビルディング」竣工

～人道橋の架橋による回遊性向上、船着場整備による水辺空間の賑わい創出を実現～

三菱地所株式会社が農林中央金庫、株式会社日立プロパティアンドサービスなどとともに東京都千代田区内神田一丁目において開発を進めてきた「大手町ゲートビルディング」（以下、本物件）が、2026 年 7 月 31 日に竣工しました。また、同街区に位置する人道橋「仲通り散歩橋」について同日に開通式を行い、同じく本物件の開発区域外の貢献として新設した防災船着場「鎌倉河岸船着場」と併せ、千代田区に引渡しを行いました。

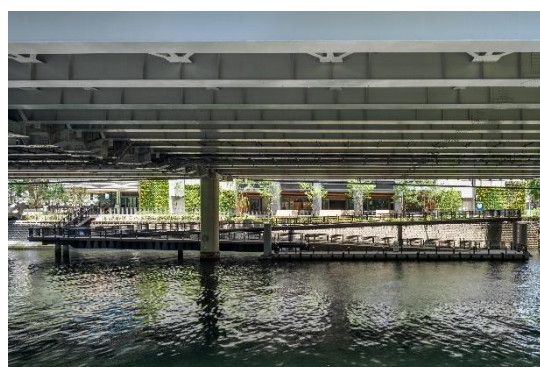
本物件は、地上 26 階・地下 3 階の大規模複合ビルで、2 階から 4 階に位置する農と食のビジネス・産業支援施設「MINORIWA（ミノリワ）」は 8 月 31 日、商業ゾーンおよび観光案内所は 9 月 7 日より順次開業いたします。なお、8 階から 25 階の一般賃貸オフィスは満床での稼働となります。



▲大手町ゲートビルディング



▲仲通り散歩橋



▲鎌倉河岸船着場

本物件は、成熟したビジネス街である大手町と、多様な文化が育まれてきた神田の間に位置しています。日本橋川に歩行者専用の人道橋を架橋、神田エリアの一部区道が無電柱化することにより、大手町・丸の内・有楽町エリア（以下、丸の内エリア）を南北に貫く「仲通り」機能を神田エリアへ延伸し、神田エリアと丸の内エリアの回遊性向上を図ります。また、オフィスや商業機能に加え、農と食の産業活性化機能などを整備することで、大手町と神田に賑わいと活気をもたらす結節点（ゲート）の役割を担います。

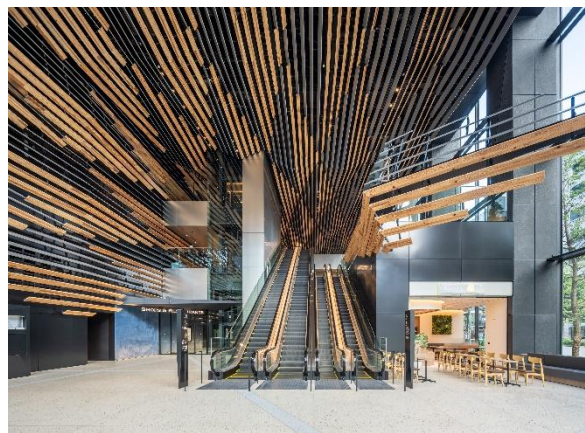
加えて、本物件南側の日本橋川には、江戸時代の物流拠点「鎌倉河岸」が存在した歴史を踏まえ、防災船着場「鎌倉河岸船着場」を新設し、災害時における防災力の強化に寄与するとともに、平時には観光利用等に供することで、東京都が推進する舟運の活性化に貢献してまいります。

■プロジェクトの特徴

【江戸の記憶を受け継ぎ、都市の接続と新たな賑わいを生み出す結節点】

<江戸の記憶を継ぐ>

本物件が位置する日本橋川沿いの一帯は、江戸時代に「鎌倉河岸」と呼ばれ、江戸城築城の資材や食材の荷揚げが行われた物流の要衝として発展しました。その後も市場や屋台、居酒屋文化など、多様な食文化が育まれ、日本の都市文化の形成に影響を与えています。本物件ではこうした歴史を継承し、「新たな文化の入口」として、人・物・情報の交差点の役割を建物デザインに反映しました。建物外部に向けて開き、人の流れを引き込む3層吹き抜けのアトリウムは、地域の隣人を招き入れる、まちの「ゲート」となる空間をイメージしてデザインしています。



▲エントランスのアトリウム

<「仲通り散歩橋」と仲通りの延伸>

日本橋川に「仲通り散歩橋」（千代田区へ引渡し）を新設し、大手町仲通りに連続する歩行者動線を神田エリアへ延伸します。神田と大手町間のエリア回遊性を大幅に向上させるとともに、丸の内仲通りへとつながることで、三菱地所が丸の内エリアで推進する「[まちまるごとワークプレイス構想](#)」に基づくまちの価値を、神田エリアへと面的に広げる新たな都市軸となります。

また、本物件の北側に隣接する千代田区道 558 号線の無電柱化・美装化、区道 549 号線の美装化を 2025 年 7 月に完了しました。神田エリアにおける歩行者ネットワークを強化し、丸の内仲通り、大手町仲通りの賑わい軸を延伸してまいります。なお、本物件東側エントランス前においては、鎌倉橋の橋詰用地を美装化し、[丸の内シャトル](#)の乗降場を新設することで、神田エリアと丸の内エリアの回遊性向上を図ります。



▲歩行者ネットワーク強化取り組み

<広場・水辺空間の創出>

本物件西側に約 1000 m²の交流広場「内神田仲通り広場」を整備し、神田エリアに不足していた大規模な公共空間を創出しました。地域の交流広場として、様々なイベントを開催できるよう、移動式の家具「ムービングファニチャー」などを設えています。

日本橋川には「鎌倉河岸船着場」（千代田区へ引渡し）を整備し、川沿いの歩道「内神田川端緑道」を敷地内に新設しました。水辺空間の活用可能性を広げることで、陸と川の両面から新たな人の流れを生み出す都市空間を形成します。

1 階のオフィスエントランス内にカフェ、広場・水辺空間に面した商業ゾーンには路面の飲食店が出店します。また、鎌倉河岸船着場に近接して、舟運利用者の待合機能や飲食・交流機能を兼ね備えた観光案内所を整備することで、エリア全体の魅力を発信してまいります。日本橋川沿いに飲食店のテラス空間が広がることで、エリアの賑わいを一層高めます。



▲内神田仲通り広場



▲内神田川端緑道

<農と食のビジネス・産業支援施設である「MINORIWA（ミノリワ）」>

2022年9月に、社会を豊かにする食を生み出すことを目的とした「めぐるめくプロジェクト」を始動し、地域間交流を促す「食卓会議」を4年間に27地域で開催。垣根を超えた共創プロジェクトを生み出してきました。2026年2月には、農や食のプレイヤーが集い、互いのリソースを共有し共創につなげることで、チャレンジの循環を生み出すサーキュラー・コモンズ「[めぐるめくコミュニティ](#)」を立ち上げました。このコミュニティの活動拠点として、本建物の2階から4階に農と食のビジネス・産業支援施設「MINORIWA」を8月31日に開業いたします。都市部における新たな価値創造拠点として、ワーカーのウェルビーイングにも寄与します。「まちまるごと」で新たな食の価値を探求し、社会の豊かさを再定義していきます。なお当施設内には、クラフトサケの醸造所「[haccoba 内神田醸造所](#)」も2026年9月に開業します。



▲2-4階農と食のビジネス・産業支援施設「MINORIWA」

【多様な企業をサポートする充実したオフィス機能】

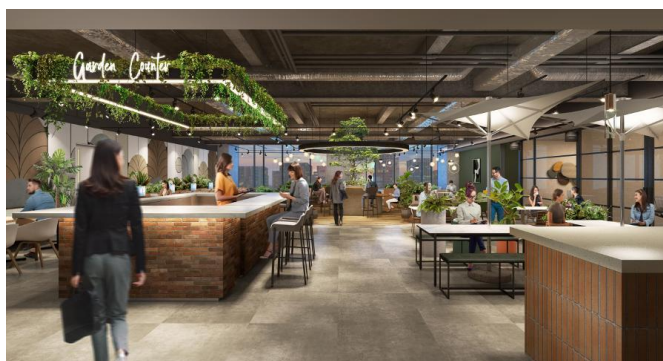
8～25階の一般賃貸オフィスは基準階面積約2070㎡（約620坪）の無柱空間で、多様な働き方に合わせたレイアウトが可能です。竣工時点での成約率は100%となり、満床での稼働となります。

18階には、貸会議室・フォーカスブースなどを併設した就業者ラウンジ「GATE LOUNGE」を設置。ビジネス利用のほかリフレッシュ、入居者同士をつなぐ交流空間となります。また、同フロアの「xLINK 大手町ゲートビル」には、約11坪～約157坪のフレキシブルオフィスを全7区画整備。就業者ラウンジ直結区画や給排水を完備したコミュニティスペース付ハーフセットアップオフィスなどを用意し、テナントは入居工事の手間なく執務を開始いただけます。

「MINORIWA」に設けられる什器付きサービスオフィスと併せ、ビル全体で大企業から中小企業、スタートアップまで多様な企業のビジネス活動をサポートする経済活動拠点を創出します。



▲オフィス基準階



▲18階就業者ラウンジ（イメージ）



▲18階「xLINK 大手町ゲートビル」専有部（イメージ）



▲18階「xLINK 大手町ゲートビル」専有部内
コミュニティスペース（イメージ）

【高い利便性と防災・環境性能を備えた、持続可能なインフラ整備】

＜地域の持続可能なインフラを構築＞

制振構造を採用し、災害時における高い安全性を確保しています。非常用電源は、平時における全負荷利用想定下において72時間の電源供給を実現し、非常時にも平時同等の事業継続が可能となります。建物東西面に配置した三角形形状の出窓は、日射遮蔽だけでなく、自然換気の取り込み機能を設けることで、意匠面だけではなく機能面も併せ持ったデザインを実現しました。

また、神田エリアのエネルギーネットワーク構築に向けて、日本橋川の川底の下を掘削し洞道を整備し、丸の内線供給が従来より展開している大手町エリアの地域冷暖房施設（DHC）と接続することで、地域冷暖房システムを神田エリアに延伸しました。これにより、神田・大手町エリア全体の環境負荷低減を目指します。

船着場は東京都防災船着場整備計画に基づく機能を整備し、震災時に拠点相互間を結ぶ緊急輸送ネットワークを構築します。建物内には、約1200㎡の空間に、約720名を収容可能な帰宅困難者の一時滞在施設を計画、当該施設が開放されるまでの一時待機場所を「内神田仲通り広場」とします。また、大手町側の防災拠点ビルと連携することで、神田エリアにおける防災性の向上に寄与してまいります。

＜環境配慮を推進＞

空調効率等を踏まえ北面をメインファサードとする建物配置計画のほか、地域冷暖房の高効率熱源の活用や高効率機器の採用、先進的な環境技術の導入など設計の初期段階より環境配慮を重点的に検討することで、「ZEB Ready 認証（事務所部分）」を取得しました。なお、本物件は環境認証「CASBEE 建築 S ランク」「CASBEE スマートウェルネスオフィス S ランク」「DBJ Green Building 認証 ★4」を取得しています。

また、本物件所在地が江戸時代に木材等の荷上場であった歴史的背景を踏まえ、「MINORIWA」には、三菱地所グループで木質建材の製造を手掛ける MEC Industry 株式会社の露出天井材「MI デッキ」を、さらに1階オフィスエントランスの壁・天井仕上げにも木材パネルを採用しました。木材パネルには、従来は建築資材としての利用が難しかった原木丸太端材から製造した「幅はぎ板」を使用することで、より長期的な炭素の固定化を目指しています。

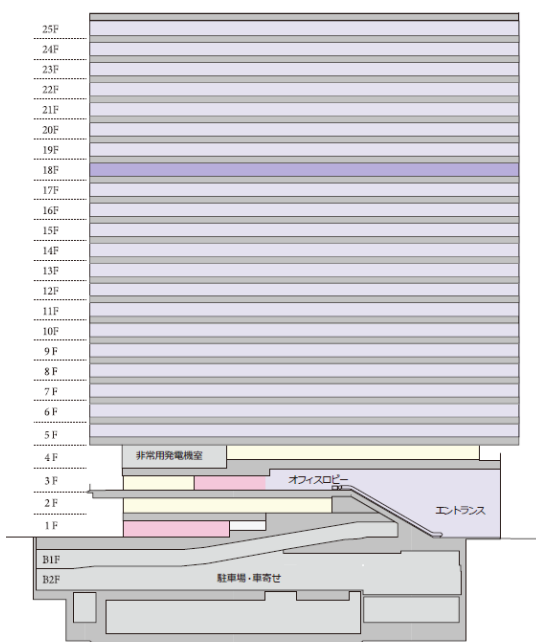


▲MI デッキ



▲幅はぎ板

【用途概要】



＜8階～17階、19階～25階＞

- ・基準階約620坪の一般賃貸オフィス

＜18階＞

- ・三菱地所が展開するフレキシブルオフィス「xLINK^{クロスリンク}大手町ゲートビル」
- ・入居者専用の交流空間「GATE LOUNGE」

＜2階～4階＞

- ・農と食のビジネス・産業支援施設「MINORIWA」
- ・什器付きサービスオフィス「MINORIWA サービスオフィス」
- ・「haccoba 内神田醸造所」

＜1、3階＞

- ・商業店舗
- ・観光案内所

<商業ゾーン店舗一覧>

	店舗名	業態
1 階	Bakery & Bistro Bolero (仮)	ビストロ
	エリックサウス	南インド料理
	和食日和 おさけと 大手町	和食会席
	焼肉 塩ホルモン 好ちゃん 神田本店	焼肉
	ドトールコーヒーショップ 大手町ゲートビルディング店	カフェ
	ブラッスリーローデンバッハ	ビアホール
2 階	haccoba 内神田醸造所	クラフトサケ醸造所兼タップルーフ
3 階	デイリーヤマザキ 大手町ゲートビル店	コンビニエンスストア

■大手町ゲートビルディング物件概要

事業名称	内神田一丁目地区第一種市街地再開発事業
所在地	東京都千代田区内神田一丁目 1 番 16 号
敷地面積	5,105.74 m ²
延床面積	85,398.71 m ²
規模	地上 26 階・地下 3 階
用途	事務所、飲食店、貢献施設、駐車場
設計者	株式会社三菱地所設計
施工者	大成建設株式会社、株式会社関電工、新菱冷熱工業株式会社、斎久工業株式会社、株式会社日立ビルシステム
工期	2022 年 7 月～2026 年 7 月

■大手町ゲートビルディングに関する取り組み

2021 年 4 月	「(仮称) 内神田一丁目計画」始動 https://www.mec.co.jp/news/archives/mec210415_uchikanda.pdf
2022 年 9 月	(仮称) 内神田一丁目計画における食と農の産業支援施設整備に向けた取り組み「めぐるめくプロジェクト」始動 https://www.mec.co.jp/news/archives/mec220915_megourmakepj.pdf
2022 年 9 月	食と農に関する連携協定の締結について https://www.mec.co.jp/news/archives/mec220926_miyazakishi.pdf
2022 年 10 月	(仮称) 内神田一丁目計画にて当社オフィスビル初 ZEB Ready の認証取得 https://www.mec.co.jp/news/mec221019_UK1zeb/mec221019_UK1zeb.pdf
2023 年 10 月	～2025 年に向けた神田と大手町を繋ぐ未来へのバトン～ ウォークアブルな川沿い空間のあり方を検証する社会実験「BATON PARK」を実施 https://www.mec.co.jp/news/detail/2023/10/20_mec231020_batonpark
2024 年 10 月	日本全国の地域活性化を担うプレイヤーが富山県立山に集結「わたしたちのまちづくりサミット」を開催 https://www.mec.co.jp/event_campaign/mec241007_watamachisummit/mec241007_wms.pdf
2024 年 12 月	日本の食農プレイヤーが一堂に会す めぐるめく日本の食卓会議 2024 を開催 https://www.mec.co.jp/event_campaign/mec241202_megourmake/241202.pdf
2025 年 11 月	日本の食農プレイヤーが一堂に会す めぐるめく日本の食卓会議 2025 を開催 https://www.mec.co.jp/event_campaign/mec251104_megourmake/mec251104_%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E9%A3%9F%E5%8D%93%E4%BC%9A%E8%AD%B02025.pdf
2026 年 2 月	「大手町ゲートビルディング」で農と食の産業支援施設整備に向けた取り組み「めぐるめくコミュニティ」始動 https://www.mec.co.jp/news/detail/2026/02/16_mec260216_megourmakecommunity
2026 年 5 月	大手町ゲートビルディングに「haccoba 内神田醸造所」開設 https://www.mec.co.jp/event_campaign/mec260521_ogb/mec260521_ogb.pdf



▲テープカットの様子（左から千代田区議会議長・秋谷こうき、三菱地所株式会社 代表執行役執行役社長・中島篤、千代田区長・樋口高顕、内神田鎌倉町会長・田熊清徳、内神田鎌倉町会婦人部長・村瀬暁美）



▲親子三代渡り初めの様子

■（ご参考）まちまるごとワークプレイス構想について

三菱地所は、2025年5月に丸の内エリアのまちづくり「丸の内 NEXT ステージ」の“次”の施策として、エリア全体をプラットフォームと捉え、テナント個社単独では実現しにくい取り組みをエリア全体で提供する「まちまるごとワークプレイス構想」を掲げました。本事業では、上記取り組みにより、神田・大手町エリアの更なる価値向上や創造的な賑わいの創出を目指すとともに、神田に延伸した丸の内エリア全体の価値を高め「ここで働きたい、ここにオフィスを構えたい、ここに訪れたい」と思われ続けるまちづくりに取り組んでまいります。

参考リリース：https://www.mec.co.jp/news/detail/2025/05/22_mec2500522_machi

<丸の内“まちまるごとワークプレイス”構想>

丸の内エリアの特性の一つは、135年以上にわたるまちづくりを通じてお客様や様々なステークホルダーと共に築き上げてきた「利便性と集積」です。その特性を踏まえ、テナント企業が自社オフィスだけでは実現できないことや、個社単独の取り組みでは実現しにくいことを「まちまるごと」でサポート、エリア全体がプラットフォームとして機能することで、働き方の質や効率を高めます。

